**説教20230407詩編22詩編95「御国への出立」**

**今、この世界は最も暗く悲しく痛みに満ちた時を迎えています。神の一人子イエスキリストが十字架に掛けられ、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いたと、マタイ福音書に記されています。三時ごろ、イエスは大声で叫ばれました。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。**

**このイエス様の叫びは人間ダビデの叫びとして、詩編22編にも記されています。**

**わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず／呻きも言葉も聞いてくださらないのか。**

**わたしの神よ／昼は、呼び求めても答えてくださらない。夜も、黙ることをお許しにならない。**

**ダビデはこのように昼も夜もうめき通すのです。そして救いを天にいます父なる神に常に求めるのです。**

**こんな風にうめきとおして生活する人間とは、今に生きる私たち一人ひとりのことでもあります。**

**さて、今は、そんな暗い時代じゃないです。スマホもテレビもあるではないですか。折に触れて、ワクワクさせられるようなスポーツやドラマも提供されているではないですか。私たちはそんなに悩んで、救いを求めなくても、現代社会に順応していれば、安心安全に暮らしていけるし、それなりに長寿を保って生涯を終えることが出来るではないですか。と言うような反論も聞こえて来そうですが、ではなぜ、その長い人生が光を見失い、絶望へと至ってしまうのか。私たちは今一度、神様の前に沈黙して、思いをめぐらしてみる必要があると思います。**

**イエス様は言いました。**

**悲しむ人々は、幸いである、／その人たちは慰められる。**

**柔和な人々は、幸いである、／その人たちは地を受け継ぐ。**

**義に飢え渇く人々は、幸いである、／その人たちは満たされる。**

**憐れみ深い人々は、幸いである、／その人たちは憐れみを受ける。**

**心の清い人々は、幸いである、／その人たちは神を見る。**

**平和を実現する人々は、幸いである、／その人たちは神の子と呼ばれる。**

**義のために迫害される人々は、幸いである、／天の国はその人たちのものである。**

**わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。**

**イエス様の言われる幸いとは、現代人がスポーツ観戦して喜んでいるのとは明らかに違います。イエス様は、私たちが受け身で喜びを受け取ることに留まらず、喜びをもたらす者であることを望まれ、それを幸いであると断言されました。私たちがイエス様の言う通り、喜びをもたらす者たちとなる時、全てのことは幸いとなります。悲しみも、飢え渇きも、ののしられ迫害されることさえも、幸いな出来事になります。**

**何故なら、その時、私たちはイエス様の御言葉に支えられ救われながら、神の御国への歩みを確実に進める者へとなっているからです。**

**この受難節で私たちが体験をしている苦しみも又幸いな出来事であります。受難週の４０日間は、かつて神の民がシナイ半島の荒れ野で40年間さ迷った時のことを思い起こすシーズンであります。「あの日、荒れ野のメリバやマサでしたように／心を頑にしてはならない。」と詩編95編で歌われています。**

**私たちは、今この時に、乳と蜜の流れる神の御国に向かって進み続けるのか、或いは心が頑なになって、エジプトでの奴隷状態に戻っていってしまうかの岐路に立たされています。**

**荒れ野での生活に不満を覚えた民たちは、口をそろえて次の様にモーセに泣き言を言いました。**

**「エジプトでは魚をただで食べていたし、きゅうりやメロン、葱や玉葱やにんにくが忘れられない。（民数記/ 11章 05節）」**

**荒れ野での生活では、苦労してもおいしい魚とかきゅうりやメロン、ネギ玉ねぎニンニクなどの風味豊かな食べ物を口にすることが出来なかったので、民たちはリーダーであるモーセに不満を言って、エジプトでの生活を懐かしんで、もとに戻ろうと思ったのでした。**

**これを聞きますと、美味しい食事で満足している現代の荒れ野に住まう私たちが、これ以上に不平不満たらたらの生活をしていることは想像するに難くないことでしょう。**

**今に生きる私たちはシナイ半島の荒れ野での生活にもまして、心して、おいしい食事を追い求めるのではなくて、まことの食べ物であるマナのほうをひたすら追い求めるよう心掛けねばならないでしょう。**

**現代社会はまことの食べ物であるマナ、即ちイエス様の御言葉の飢餓状態にあると言われます。将にその通りであります。イエス様の御言葉が書かれているこの聖書はベストセラーと言われながら、普通の学校では読まれることの方が少ないでしょう。そんな状態でありますから、イエス様の御言葉に救いを求めると言っても、それ自体が意味不明で分からないことになっています。そんな御言葉の飢餓状態にあっても、今日の詩編22編でのダビデの叫びは、全ての人々の心のうちに突き刺さって来ることでしょう。**

**詩編22編20節**

**主よ、あなただけは／わたしを遠く離れないでください。わたしの力の神よ／今すぐにわたしを助けてください。**

**今の世の中では、言葉が軽くなり、言葉に嘘が加えられ、言葉全体が信用するに足る価値を失っている様です。その結果、人々は社会生活においても、又、家庭生活においても言葉の積み重ねによって信用や愛情を構築していくことが難しくなっています。平気でうそをつける人が、その力を振るって、状況を益々悪くしています。全てを混乱と絶望へと追いやっていきます。**

**そんな状況の中で私たちは、人間ダビデのように主に助けを求めようではありませんか。**

**主イエスよ、あなただけは／わたしを遠く離れないでください。わたしの力の主イエスよ／今すぐにわたしを助けてください。**

**主イエスは御言葉であり、教会のかしらとして存在するお方であります。教会の体の枝である私たち一人ひとりは、この様に、主イエスをいつも慕い求め、すぐに主イエスが救いの手を差し伸べて下さることを待ち望んでいる者たちであります。**

**さて御国とは何処でしょうか。讃美歌90番は「ここも神の御国なれば」で歌い始められます。すなわち今ここも神の御国なのです。**

**主イエスは言われました「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」と。**

**人間ダビデもそのことに気が付いていたようです。詩編２２編22節でダビデは主に、「獅子の口、雄牛の角からわたしを救い／わたしに答えてください。」と言っていますが、これは「わたしを救い／わたしに答えてくださった。」と完了形で訳すことも出来ます。**

**ダビデは主の救いが我が身にもたらされたことをここで述べているのです。**

**主に救われたダビデは、23節「私は兄弟たちにあなたの名を語り伝え／集会の中であなたを賛美しよう。」と言っています。この様に、ダビデを変え、神の国に住まう者へとしたのは、他ならぬ主御自身であり、主に救われてダビデは、主の御名を語り伝え、主を共に賛美するものへと変えられたのでした。**

**大いなる集会で、私の賛美があなたから出る。／主を畏れる人々の前で、私は誓いを果たそう。苦しむ人は食べて満ち足り／主を尋ね求める人は主を賛美する。／あなたがたの心がいつまでも健やかであるように。**

**人間ダビデは初めは虫けらのように小さく、自己卑下している存在であったのに、**

**主よ、あなただけは／わたしを遠く離れないでください。わたしの力の神よ／今すぐにわたしを助けてください。**

**と、主にだけ助けを求めすがりついたがゆえに、主によって豊かに憐れまれ、元気にされて、主を賛美するものへと変えられたのです。そして、初めは自分の救いのことで精一杯であったダビデですが、主なる神により、自ずと、あなた方という他者の為に祈り働く者と変えられたのでした。**

**私たちも又、主イエスキリストと出会い、そして主イエスに祈り、すがりついて救いを求める時、主イエスは私たち一人ひとりを豊かに憐れまれ、孤独から救い出して下さって、自ずから、あなた方という他者のために祈り働く者へと変えられていくのです。**

**この様に、私たちを幸いに変えて下さるのは、それがイエスキリストであるからです。なぜイエスキリストなのですかという問いは意味がありません。そのように私たちを幸いに変えて下さるお方がイエスキリストだからです。私たちはお地蔵さんや、人間や、大自然の造形物などの偶像に救いを求めてすがりついては、決して幸いには成れないのです。**

**イエスキリストはすがりつけば、今すぐにでも私たちを助けて下さいます。**

**イザヤ書51章２節以下に、十字架に掛けられた主イエスの救いの御業が次の様に記されています。**

**乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように／この人は主の前に育った。見るべき面影はなく／輝かしい風格も、好ましい容姿もない。**

**彼は軽蔑され、人々に見捨てられ／多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し／わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。**

**彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。**

**彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。**

**輝かしい風格も、好ましい容姿もない、釘打たれ血がしたたる主イエスは、この暗い世の中で私たちの救いとなって下さるお方です。主イエスは自分の肉体と心をこのように傷つけられたがゆえに、今の社会での私たちの苦しみ悲しみに、すぐに寄り添って下さることが出来るお方なのです。必要なことはただ一つ、私たちが、主イエスにすがりつくことだけです。**

**主イエスは十字架上で、自らの体を引き裂いて、私たちが神の御国の完成へと歩む道を切り開いて下さいました。神の御国が完成し、私たち信じる者がそこに集う時がやってきます。**

**地の果てまで／すべての人が主を認め、御もとに立ち帰り／国々の民が御前にひれ伏しますように。また、子孫は神に仕え／主のことを来るべき代に語り伝え／成し遂げてくださった恵みの御業を／民の末に告げ知らせますように。**

**私たちも、これらの場所的にも時間的にも離れている全てのあなた方という他者の為に祈り働く者とならせて頂きましょう。**

**祈り**

**主よ、あなただけは／わたしを遠く離れないでください。わたしの力の神よ／今すぐにわたしを助けてください。**

**あなたは憐れみと慈しみに満ち、私たちを救うために最愛の一人子イエスを、私たちに遣わし、十字架の上で釘打たれ、血を流され苦しまれました。その受けた苦しみが私たちの罪の為であったことに深く思いを致し、あなたに感謝と賛美を捧げます。**

**どうか、私たちが絶えずあなたの御国へと出立し、二度と死に囚われることがないように、常に私たちを導き、その一歩一歩を守って下さい。**

**私たちは罪の故に、あなたを見上げることが出来ず、隣り人達を思いやることが出来ません。どうかそんな私たちを、御子の十字架によって打ち砕いて下さいますように。私たちが御子に従順であり、御子が受けた十字架の痛みを知り、あなたの憐れみと慈しみの内に生かされ、御復活のキリストと共に生きることが出来るようにして下さい。**